

松が谷高校の生徒の皆さんへ ー校長メッセージ（21）（令和4年4月6日）

自分らしさを生かし「常に向上する人」になるために

校長 博田 英明

新2・3年生の皆さん、おはようございます。校長の博田です。

世界に目を向けるとウクライナの情勢が大変気に掛かります。また新型コロナウイルス感染症との闘いも3年目に入りました。未だ感染は収まらない状況ですが、私は皆さんがマスク姿で懸命に授業や学校行事に取り組み、黙食を徹底している姿を見て、困難な状況を乗り越えようという力強さを感じています。今日は新しいクラスの中で迎える初めての始業式にあたり、皆さんがさらに充実した学校生活を送るためのヒントについてお話ししたいと考えています。

先日の修了式で私は皆さんに「自分の良さに磨きをかけよう」というお話をしました。その時思い出したのが、3月に本校の国際理解講演会で講演をしてくださった俳優のサヘル・ローズさんです。サヘルさんは、都立園芸高校在学中に、持田先生という素晴らしい恩師に恵まれたそうです。それまで小学校や中学校でいじめられていた経験から、高校入学当初、サヘルさんは「個性を消して、何でも周囲に合わせていけばいじめられない」と思っていたそうです。そんなサヘルさんに持田先生は、「友達は数じゃない。一人の親友を得ることは奇跡。その奇跡を起こすためには『自分らしさ』を出さないとダメよ」と優しく諭してくれたそうです。自分らしさ、つまり自分の良さを出せばいいのだということです。サヘルさんは持田先生との交流を今でも続けているそうです。

さて、本校の教育目標における「建学の精神」の一つに、「真なるもの善なるもの美しいものを求め、常に向上する人」という言葉があります。私は皆さんが現在の状況に満足せず、「常に向上する人」であってほしいと願っています。この「常に向上する」というキーワードを思い描いた時、私の頭にパッと浮かんだ若手の俳優がいます。それは、俳優であり歌手である、現在24歳の上白石萌音さんです。今週最終回を迎える朝の連続ドラマでもヒロインを務めるなど、「世代ナンバーワン」の呼び名が高い彼女ですが、あの唯一無二の才能は、どのように育まれたのでしょうか。萌音さんの故郷・鹿児島でルーツをたどると、天真爛漫な笑顔からは想像もつかない過去があったようです。

同級生の話によると、小学校時代の萌音さんは、メガネをかけていて、自信がないのか声も小さく、内向的な性格が災いしてクラスメイトとも衝突し、低学年の頃には1年近く学校に足が向かない時期もあったそうです。その頃、大きな転機が訪れました。萌音さん

が小学3年生のとき、社会科の先生だった父親がメキシコにある日本人学校に転勤になり、一家で移り住むことになったのです。萌音さんはメキシコで暮らしている間、スペイン語を習った人から「悩んでいる時間があるなら、楽しんだ方がいい！」と教えられたことに、大きく価値観を揺さぶられたそうです。

6年生のときに帰国すると、彼女はまるで別人となっていました。以前と同じ小学校に戻ったのですが、衝突していたクラスメイトも意に介さず、授業中は挙手をしてハキハキと発言したり、将来の夢は「劇団四季に入って、ミュージカル女優になる」と語っていたそうです。中学生になった萌音さんは、両親を自分の夢に巻き込み、芸能界への憧れを膨らませていき、「東宝シンデレラオーディション」で審査員特別賞に輝きました。

芸能活動が本格化すると、毎週のように母が付き添って鹿児島から東京へ行くようになり、中学卒業に合わせて、父親だけを鹿児島に残して上京しましたが、家族4人が一緒にいられる時間が減り、家族思いの萌音さんにとっては、両親を自分の夢に巻き込んでしまったという複雑な思いもあったようです。

映画関係者によると、だからこそ彼女は生半可な気持ちで女優をやっているわけではなくという強い想いから、何度も何度も台本を読んで、気づいたことをひたすら書き込みながら練習し、いつも「ただ覚えるだけじゃ全然足りない」と口癖のように言っているそうです。あつという間にブレイクし、国民的女優に邁進している萌音さんですが、過去の苦い経験もあるからか、決して天狗になることはありません。あるテレビ局の関係者もこう言っています。「とにかく裏方スタッフからの評判がいいのです。スタッフ全員の名前を把握していて、名前を呼んでから、おはようございますと挨拶する。決して事務的な挨拶じゃないから、こっちも嬉しくなりますよ」と。確かな演技力と周囲への真摯な姿勢を武器に、女優・上白石萌音さんは新たな道を切り開いていっています。

今日お話ししたお二人、サヘル・ローズさんと上白石萌音さんに共通するのは、環境の変化により壁にぶち当たったときに、周囲の人からもらった言葉を大切にして、自分の良さや自分らしさをより前面に出そうと自分自身を変えていったことです。自分自身を変えようとすることは大変なことかもしれません。しかしこうしたきっかけをプラスに捉えて、生き方や姿勢までも変えていったこのお二人から学ぶことは多いのではないのでしょうか。

以上、新しい学年が始まる節目となる今日、皆さんが新しいクラスという新たな環境の中で、自分の良さや自分らしさを発揮してほしいなと期待しながら、始業式での私からの挨拶とします。